

2020年7月2日

パナソニック株式会社
パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

「現場センシングソリューション」の事業戦略を発表 ～「ニューノーマル」時代のお客様のビジネスにお役立ちを提供～

パナソニック株式会社(本社:大阪府門真市、代表取締役社長:津賀一宏)とパナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:片倉達夫)は本日、(1)顔認証ソリューション、(2)センシングソリューション、(3)高性能エッジデバイスを統合し、お客様にEnd to Endのソリューションをご提供するために、新たな事業「現場センシングソリューション」を立ち上げ、事業戦略を発表しました。

当社では、人やモノが動くお客様の「現場」のお困りごとを、当社が強みを持つテクノロジーやエッジデバイスで解決していくことを目指し、「現場プロセスイノベーション」のビジョンのもと、事業を推進しています。人口減少や人手不足といった昨今の課題に加えて、世界的な新型コロナウイルス感染症が拡大する中、ビジネスを継続しなければならないお客様の現場は大変厳しい状況に置かれています。このような状況において、顔認証などの非接触やセンシングソリューションへの期待は高まってきております。この度の事業立ち上げに伴い、「現場センシングソリューション」を「現場プロセスイノベーション」を実現するコア事業の1つに位置づけます。新たな体制を構築することで、市場の変化を先取りし、お客様へのさらなるお役立ちを提供できると考えております。

事業設立の背景と新組織について

市場の急速な変化に対応し、環境変化を読み取り素早く成長戦略を描かなくてはならないお客様のニーズを満たすため、各々単独でのアプローチよりも、3つのソリューションを統合し、ハード・ソフトを問わずお客様のニーズファーストでソリューションを組み立てられるスキームを構築する必要がありました。この目的を達成するべく、この度新たに事業を立ち上げ、それに伴い組織体制を刷新しました。

新組織においては、着実な発展を遂げていくために、営業部門・開発部門・全国保守部門の総勢約1,200名体制で推進します。新組織設立に伴い、本事業で2025年度に1,000億円の販売を目指します。

具体的な事業戦略は以下の通りです。

事業戦略1:エッジデバイスのさらなる進化

1. パナソニックのUXデザイン哲学

100年にわたり製造業で培ってきたノウハウと、家電のDNAを生かした直感的なUIで、さらにユーザビリティの向上を追求します。例えば当社の顔認証ゲートは、現在6地点の空港の出帰国手続きに運用いただいております。法務省様によると日本人旅行者全体の約8割が利用しています。このゲートには直感的にご利用いただける工夫が施されています。このようなユーザビリティは、当社のあらゆるエッジデバイスに適用されており、今後もこの点を進化させてまいります。

顔認証ゲートのデザイン



2. 国内シェア1位のセキュリティカメラ※1のさらなる高機能化

エッジデバイス側にAIが搭載されたアプリケーションを導入することで、サーバーへの負担を軽減して実現する監視用途以外の付加価値を提供いたします。システムの利用に際し、お客様側に追加のサーバーコスト等が発生することなくシステムを構成できるため、結果的にコスト効率よくシステムを導入いただけます。

高機能なエッジデバイスを求めるお客様のニーズは高く、今後も継続して高機能化に注力してまいります。

※1 2020年7月2日当社調べ、パナソニック i-PRO センシングソリューションズ株式会社が提供



車両ナンバープレート認証

車のナンバー情報を認識し、設定した条件でお知らせします。



AIプライバシー保護

カメラ自身が映った人を認識して、自動的にプライバシー保護を行います。



AI動体検知

侵入検知・滞留検知・方向検知・ラインクロスなど人の動きをお知らせします。

事業戦略2: AI画像センシング技術の先鋭化

1. 学習データの自動生成による認証精度向上の取り組み

現場の状況を的確に把握するためには、人の動きや周辺の状況（混雑状態、物体の種類等）を高精度に認識する必要があります。しかし、現場の撮影環境は低照度・逆光など様々な変化があり、また、検知対象も子供から高齢者まで、さらに、物体の種類も多岐に渡るため、これまでは、学習に必要な画像データを収集するのに非常に時間を要するという課題がありました。

当社は、様々な撮影環境・検知対象などを人工的に自動生成する独自の拡張技術を強化することで、広範囲にわたって収集することが困難なデータを豊富に取り揃え、今後も引き続き、スピーディな認識精度向上を実現してまいります。

希少なサンプル画像から独自技術により学習データを生成



2. マルチモーダルセンシング技術

視覚的に認識が困難な事象を、音声などの他のセンシング技術で補完し、特定できるようにします。異常音検知などにより多面的に状況を理解することで、現場での実用性を向上させます。顔、人の骨格や動き、音、モノの形状などの複数の認証要素を組み合わせることにより、より正確かつ迅速に状況の把握をすることが可能になり、効率的な社会課題の解決につながれます。

様々なセンシング技術の融合で新たな価値創出を加速



事業戦略3: 世界最高水準※2の顔認証技術をより多くのお客様に

アプリケーション提供プラットフォーム構築

これまで、顔認証については顧客ケースにカスタマイズしてアプリケーションやハードを組み合わせて提供していました。昨今お客様からは、より軽くてコスト効率よくセンシングや顔認証を利用したいというニーズが高く、この度の新組織設立に伴いお客様の需要に合わせてサービスを提供できるよう、アプリケーションの開発を強化してまいります。

2019年11月に顔認証APIを公開※3し、認証技術をお客様サービス内で手軽にご利用いただけるようになりました。今後も継続的に利用ニーズの高いお客様にAPIでの利用を推進してまいります。さらに、SaaS上に顔認証機能だけではなく、他のサービス(例えば決済等)も組み合わせられた形で、必要なソフトウェアをサービスとしてオンデマンドで提供することも検討しております。



今後の展開について

本事業の成長性を向上するためには、既存の案件対応を維持しつつ、アプリケーションとプラットフォームを拡充することが重要と考えております。プラットフォームを整備し、パートナーのビジネス拡大と効率的なアプリケーションの拡充により、多様なお客様の要望に全方位で応えられる体制を構築することにより、さらに多くのお客様にお役立ちを提供し、ビジネスの成長につながられると見込んでおります。

本事業戦略は、映像をとらえる“目”である高性能エッジデバイスのユーザビリティを高め、エッジコンピューティングの機能を強化し、さらにはセンシングや顔認証のアプリケーション開発を強化することで達成できるものです。そして、その大前提として、お客様のそれぞれの現場の課題に寄り添い、お客様やパートナー様と共創しながら、End to Endでのソリューションを提供することが重要だと考えています。

当社は今後も、現場にお役立ちを提供するため、新体制で一丸となってソリューションの提供に取り組んでまいります。
なお、新たなサービスにつきましては、今後提供開始が決まった時点で発表をさせていただく予定です。

※2 2017年4月28日に公開されたNIST公式の評価レポート(IJB-A Face Verification Challenge Performance Report、IJB -A Face Identification Challenge Performance Report)における評価点において。

※3 プレスリリース(2019年11月25日)

ディープラーニングを応用した顔認証技術のAPIを提供開始

<https://news.panasonic.com/jp/press/data/2019/11/jn191125-2/jn191125-2.html>

【お問い合わせ先】

パナソニックシステムお客様相談センター

電話 0120-878-410(受付:9時~17時30分<土・日・祝日は受付のみ>)

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。